

小池 宏明 牧師

***罪の増大で悲しむ神と神とともに歩むノア**

なぜ、主なる神様は、ご自分が創り出した世界、しかも、「非常に良かった」と、喜ばれた世界を、自ら滅ぼそうとしたのだろうか？ それは、5-7節のとおり。「6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。6:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。6:7そして【主】は言われた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜や這うもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを悔やむ。」主なる神様が「悔やむ」とは、罪を犯し続けて罪悪から離れることができない人間を見て、とても悲しまれたことを表わしている。その深い悲しみは、人間の言葉では、とても表現しきれないほどのものだ。

ところが、主なる神様は、こんな乱れた世界に、全き信仰者を立てて下さった。そして、3人の息子を与えて、自らの心の内をノアに語って下さった。8-14節「6:8 しかし、ノアは【主】の心にながっていた。6:9 これはノアの歴史である。ノアは正しい人で、彼の世代の中であって全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。」

***ノアの信仰：すべて主が命じたとおり行うノア**

ノアは、神のことばに従って、忠実に箱舟の制作に、取り掛かった。22節「6:22 ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。」ノアの箱舟の出来事の中で、カギになる御ことばである。続く7章5節や9節、16節にも出てくる。

私たちは、どうやって神様の命じられたとおりに、すなわち神の御心にかなった歩みができるだろうか。

主イエス様は、神様の大切な教えを2つに要約してくださった。1つは「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神を愛しなさい。」2つ目は「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」(マタイ 22:37-39)

私たちは日々の歩みの小さな事でも、人生の大きな岐路に立った時でも、力の限り、主を第一として愛しているか、また隣人を愛しているか、そのことが問われる。もし、この教えの通りに歩もうとするならば、主は豊かに祝福してくださり、正しい道へと導いてくださる。

ヘブル人への手紙「11:7 信仰によって、ノアはまだ見えない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。」